

⚠ 注 意

取り付けに関して専門の知識が必要な場合がございますので、経験や自信の無い方はリペアショップにご依頼ください。誤った取り付け方等でパーツ本体や、ギター本体を破損された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。

1 取り付け方法

PRO III TELE F3は取り付け時に部分的に分解する必要があります。
プラスドライバーとStetsbarに付属の六角レンチを使用し下記の手順で分解します。

1



チューンオーマチックブリッジを外します。六角レンチを使い、テンションアジャストスクリューを緩めます。

2



プラスドライバーでフローティングロックスクリューを完全に緩め、スプリングを取り外します。

3



マウンティングプレートを裏返し、キーパー screws が後ろ側の穴位置にあるかを確認します。

4



次にブリッジプレートを前方に押してキーパー screws をマウンティングプレートの前側の穴の一まで動かして、ブリッジプレートを持ち上げて外します。

5



付属の太い方のネジでマウンティングプレートをギターに固定します。取り付ける機種に合わせて、穴の位置を決めてください。

6



ローラーベアリング(丸印)がブリッジプレート下面のスロットに残っていることを確認します。あらかじめワセリンなどを塗っておくとよいでしょう。

7



キーパー screws がマウンティングプレートの前側の穴に、スイングリンク(丸印)が黒色のパーツのスロットに、それぞれはまったことを確認して、ブリッジプレートを再装着してください。

8



ブリッジプレートを後方に押して、スイングリンクが黒色パーツのスロットに適合していることを確認しながら元の位置にセットし、スプリングを再装着してください。

9



チューンオーマチック・ブリッジを取り付け、弦を張って、セッティングの準備をします。

△注意

本工程には楽器技術に関する経験と知識が必要な緻密な調整が含まれます。自信のない方はプロショップへご依頼ください。本項の「注)」内の警告を無視された作業によりパーツ本体や、ギター本体を破損された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。

1

テンションアジャストスクリューとフローティングロックスクリューが完全に巻き戻されていることを確認してください。

注) 必ず上記のスクリューを戻してください。
今後の工程で破損の恐れがあります。

2

弦を張り、ストレッチして弦の状態を安定させてから、チューニングを行ってください。

3

チューニングをすると、アームが弦の張力で引かれます。Stetsbarをゼロポイント(正しいギターのスケール)に戻すために4の工程を行います。

4

左右のテンションアジャストスクリューを交互に少しずつ(1/8回転以下で)回して、徐々にStetsbarブリッジを正しい位置へ移動させてください。こうすることで、弦のテンションが急激に変わることを防げます。

注) ネジは慎重に少しずつ回してください。破損の恐れがあります。

5

ブリッジの高さを調整し、またサドルの位置を調整してイントネーションを合わせてください。

6

「フローティングロック」機能を使用するには、次の操作を行ってください。

ストリングアンカー部に触れるようにフローティングロックスクリューを調整し、さらに1/2回転させてブリッジプレートをわずかに前方に押し込みます。ギターの音程を戻すためにテ左右のテンションアジャストスクリューを交互に少しずつ(1/8回転以下で)慎重に締めて戻してください。

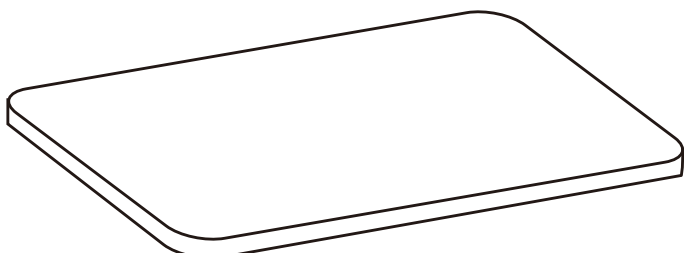
⚠ 注 意

本工程以降には楽器技術に関する経験と知識が必要な緻密な調整が含まれます。また、適した工具と高い取り付け精度、高度な加工技術が必要です。一般のユーザー様ご自身での取り付けは推奨しておりません。基本的にプロショップへご依頼ください。誤った取り付け方等でパーツ本体や、ギター本体を破損された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。

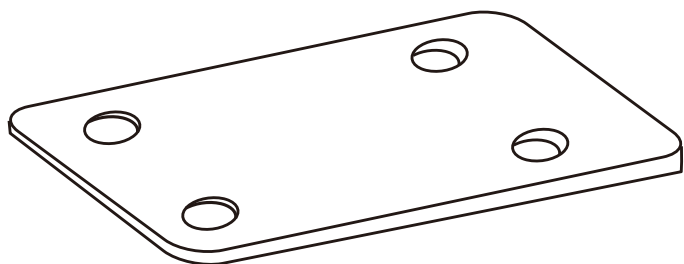
プロショップの方へ

下記の手順をご確認いただき、工具等が揃っていることをご確認の上、取り付け、調整をお願いいたします。(工具が揃ってない等の場合、リペアショップ等にご相談いただくか、キクタニミュージックまでご相談ください。)

ネックアングル調整



木製プレート



加工例

付属の木製プレートをネックとボディの間に挟みアングルを調整する必要があります。

適切な角度になるように木製プレートを加工し、ネックジョイントの位置に穴を開けてください。

※適切な角度とは…

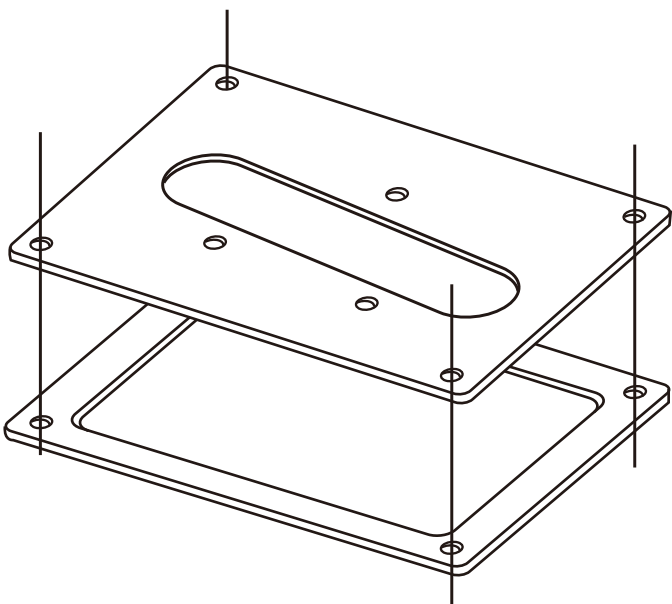
弾きやすい弦高を保ち、なお十分な弦高調整幅がありSTETSBARが正しく機能する角度です。

⚠ 注意

適した工具と高度な加工技術が必要です。

ゲガに注意して作業を行ってください。

エスカッションの取り付け



オリジナルのテレキャスターはブリッジプレートにP.Uがマウントされてますので、新たに取り付けビス穴を4箇所空ける必要があります。

1.STETSBARを取り付け、ネックアングルも含め、正しくセットアップされた後に行ってください。

2.弦とポールピースの位置確認

3.P.Uのエレベーション確認

(場合によってはキャビティを加工する必要もあります。)

以上をされた上、ビス止めを行ってください。

下穴φ2.7L20を推奨しますが、ボディ材の硬さにより調整してください。

⚠ 注意

適した工具と高度な加工技術が必要です。

ゲガに注意して作業を行ってください。

Q Stetsbarのピッチレンジは？

A 弦のゲージによりレンジは異なりますが、.009-.042のゲージで、6弦解放(E)を最大で1オクターブ程度アームダウンのセッティングが可能になります。アームアップは、セッティングによりですが3F程度までとなります。弦のゲージが太くなると、ピッチレンジは狭くなりますので、Stetsbarをご使用になる場合は、.011-.048より太いゲージは推奨致しません。Stetsbarのピッチレンジはスタンダードなシンクロナイズドトレモロブリッジと同程度です。

Q Stetsbarでチューニングがすぐに狂ってしまう

A Stetsbarのインストールとセッティングに問題が無いか確認してください。さらに弦がきちんとストレッチできており、安定しているかをご確認ください。その上で、最も重要なのはギターのナットです。Stetsbarは、リニアトレモロでテイルピースとブリッジも可動式です。そのため、ナット部が唯一弦の擦れる部分になります。ナットの溝切りがしっかりと行われていることを確認し、それでもチューニングがすぐにずれてしまう場合、ナットに潤滑油を塗るか(推奨 MUSICNOMAD MN106)、グラファイトナットやローラーナットなど、摩擦の少ないナットをご使用ください。また、ニッケルストリングの方がチューニングが安定するかもしれませんのでお試しください。

Q Stetsbarを導入してから、どこを調整すれば良いですか？

A トレモロアームでのプレイ経験を積んで、Stetsbarの使用に慣れたらテンションアジャストスクリューを調整してお好みのセッティングを探してみてください。

Q Stetsbarのハムノイズ対策は？

A どうしてもStetsbarに起因するハムノイズが発生する場合(弦アースが取れない場合)は、Stetsbarにグラウンドワイヤーを接続してください。ブラックカラーのモデルなどでは、接続部のメタル部を露出させる必要がある場合があります。Stop Tailモデルでは高音弦側のストップテイルホール内にグラウンドワイヤーを接続するので、追加作業の必要はありません。T-Styleではリアピックアップのネジからグラウンドが接続されますが、一部のピックアッププレートが無いモデルの場合、グラウンドを接続する必要がある場合がございますのでご確認ください。

Q 特殊なギターにStetsbarは取り付けられますか？

A Stetsbarは、ストップテイルピースやTLタイプのブリッジに適合するよう作られています。スタンダードなモデルに合わせて作られていますので、特殊なモデルでは取り付け自体ができないこともございます。必ずサイズ等をご確認の上お買い求めください。

⚠️ ご注意下さい ⚠️

パーツの取り付けは専門の知識・技術・環境が必要となります。取り付けの条件が揃わない場合はギターリペアショップに依頼して下さい。
また、弊社での取り付けサポートは致しかねます。取り付け時や取付後におきた、キズ、ビス折れ等のミス(破損)塗装面への影響に関しましては当社では責任を負いかねます。